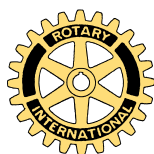


## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2026～2027年度 国際ロータリー オンラインカ・ハキーム・ババロラ 会長テーマ

CREATE LASTING IMPACT 持続可能なインパクトを生み出そう

創立 1954年 3月 8日  
承認 1954年 3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL <0566>22-2111  
FAX <0566>25-2111  
メー ル kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会 長 伊 藤 節 夫  
幹 事 寺 田 博 正  
会報委員長 黒 田 栄 一

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第3319回例会プログラム

[当年度＝2回目；当月＝2週目]

2026年（令和8年）7月13日(月)

## ビ ジ タ ー

知立 RC 渡辺 伸一 様（会長）

知立 RC 鈴木 明 様（幹事）

## 1. 例 会……………〈司会：プログラム委員会〉

12:00 〈食 事〉

12:28 1. チャイム

12:30 2. 点 鐘……………〈会 長〉

3. 開会宣言

4. ロータリーソング斉唱……………我等の生業

5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介

6. 会長挨拶並びに会長報告

7. 幹事報告

8. 出席報告

※第4四半期皆出席の発表(出席委員会)

9. 委員会報告

10. ニコニコボックス報告

11. 次週並びに次々週のプログラムの予告

(7/20)……………休会（法定休日）

(7/27) ……

クラブ協議会並びに懇親会(親睦活動委員会)

17:30～ ANA クラウンプラザホテル知立



鈴木 明 様 渡辺 伸一 様

## 出 席

会員総数 95名 出席免除 23名

出席義務者+免除者の内例会出席者 85名

欠 席 3名 出席率 96.47%

前々回（6/22）の修正出席率 100%

## 会 長 報 告

1) 国際ロータリー財団より、ポール・ハリス・フェローの認証品が届いておりますので、ご報告致します。

はじめに、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー3回目、久米博明会員です。

続きまして、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー2回目、下谷敏朗会員です。

続きまして、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー1回目、中川耕児会員、新海伸二会員、豊田貴久会員です。

続きまして、ポール・ハリス・フェロー、磯村巖会員、宮地秀将会員、新美大輔会員です。

以上、8名の皆様です。誠にありがとうございます。

## 2. クラブ協議会……………〈司会：幹 事〉

13:00 1. 開会の言葉……………〈司 会〉

2. 各委員長の事業計画発表  
……………〈各委員長〉

3. 閉会の言葉……………〈司 会〉

12. 点 鐘……………〈会 長〉

13. 閉会宣言

13:30 14. 散 会



- 2) 続きまして、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より、米山功労者の感謝状が届いております。
- 第3回米山功労者 深谷嘉英会員  
 第2回米山功労者 角谷広高会員、山下雅則会員  
 第1回米山功労者 宮地秀将会員
- 以上、4名の皆様です。誠にありがとうございます。



## 幹事報告

- 1) ロータリーレートについて  
 7月のロータリーレートは、1ドル162円となりますので、ご報告致します。
- 2) 報道関係者との懇談会について  
 本日18時30分より、ビレッジ高倉レストランにて、報道関係者との懇談会を開催致します。ご出席予定の皆様は、よろしくお願い致します。

## 会長あいさつ

伊藤 節夫



本日は、2026-27年度、第2760地区國府谷俊盛ガバナーの地区方針について、私なりに要点をまとめてお話しします。

所属クラブ 名古屋東 RC

職業分類は私立学校 名古屋旭学園  
 理事長

2007年7月入会

2009-10年度ローターアクト委員長をはじめ各委員長を重ねられ

2016-17年度幹事

2024-25年度会長

2025-26年度ガバナーエレクト

2026-27年度2760地区ガバナー

國府谷ガバナーが最も伝えたいことは、「ロータリーの原点を大切にしながら、未来へ向かって進もう」ということです。

120年以上続くロータリーには、「超我の奉仕」や「四つのテスト」といった普遍の価値があります。これらは決して変えてはいけない大切な精神です。

一つ目は、時代は大きく変化しています。社会のニーズや会員の価値観も変わっています。そのため、クラブ運営や活動方法は柔軟に変えていかなければなりません。伝統を守りながらも、新しい発想を取り入れることが求められています。

二つ目は、「会員一人ひとりが主役になるロータリー」です。

ロータリーは役員だけで成り立つ組織ではありません。新入会員もベテラン会員も、それぞれが自分にできる奉仕を実践することがクラブの活力になります。

会員同士がお互いを尊重し、学び合い、友情を深めることが、より良いクラブづくりにつながります。

三つ目は、「会員増強と多様性」です。

地区では会員減少が課題となっています。そのため、若い世代や女性、多様な職業背景を持つ人たちにロータリーの魅力を伝え、新しい仲間を迎えることが重要です。

会員を増やすことは、数が目的ではなくクラブをさらに元気にするための取り組みなのです。

四つ目は、「公共イメージの向上」です。

地域の皆さんに、ロータリーの活動を知って頂くことも重要です。

奉仕活動を行うだけではなく、その活動をホームページやSNS、地域のメディアなどを通じて発信し、「ロータリーは地域に必要とされる団体」であることを広く伝えていくことが求められています。

五つ目は、「世界への奉仕」です。

ロータリー最大の目標であるポリオ根絶への取り組みは、今後も最重要課題です。

また、ロータリー財団や米山記念奨学事業への支援を通じて、私たちは地域だけでなく、世界にも奉仕を続け

ています。

この活動はロータリーだからこそ、できる世界規模の奉仕です。

最後に、私が國府谷ガバナーの方針から最も強く感じたことは、「変化を恐れず、しかしロータリーの心は決して失わない」という姿勢です。

クラブが活性化するためには、1人ひとりが楽しみながら参加し、学び、友情を深め、そして奉仕を実践することが何より大切です。

私たちも、この1年間、國府谷ガバナー方針を意識しながら、地域に必要とされるクラブづくりを進めていきたいと思っています。

國府谷ガバナーの2026-27年度地区方針では、ポリオ根絶への継続した取り組みに加え、青少年の自殺という深刻な社会課題にもロータリーとして目を向け、地域でできる支援を考え、行動していくことが強く提唱されています。

私が、印象に残った点を中心にまとめてみました。

國府谷ガバナーは、ロータリーの基本理念を大切にしながら、「今、社会が本当に必要としていることに目を向けよう」と呼びかけておられます。

### 1. ポリオ根絶への使命

ロータリーが40年以上取り組んできたポリオ根絶運動は、あと一步というところまで来ています。

しかし、「あと少しだから終わり」ではなく、「あと少しだからこそ最後までやり抜く」という姿勢が大切です。

私たち1人ひとりの寄付や理解、啓発活動が、世界中の子どもたちを守ることに繋がります。

これはロータリーだからこそ実現できる世界規模の奉仕です。

### 2. 青少年の自殺という社会課題

國府谷ガバナーが特に強く訴えておられるのが、青少年の自殺問題です。

日本では、若い世代の自殺が大きな社会問題となっています。

ロータリーは医療や福祉の専門団体ではありませんが、地域社会とつながる団体として、「孤立させない地域づくり」「子どもたちを見守る環境づくり」に貢献することはできます。

「一人でも多くの子どもたちが希望を持って生きられる社会をつくること」も、奉仕の1つなのだと思います。

### 3. 仲間を増やし、地域に信頼されるクラブへ

奉仕を続けるためには、元気なクラブが必要です。

会員増強は人数を競うことではなく、志を同じくする仲間を増やし、地域への奉仕をより充実させるためです。

また、活動を積極的に発信し、地域の皆さんにロータリーを知って頂くことも重要です。

國府谷ガバナーの地区方針を通して感じたことは、ロータリーは「奉仕をする団体」であるだけでなく、「命と希望を守る団体」でもあるということです。

世界ではポリオ根絶に取り組み、地域では青少年の未

来を支え、クラブでは友情を育む。

その一つひとつの活動が、ロータリーの理念を形にしているのだと思います。

私たちも、この1年、それぞれの立場でできることを一つずつ実践し、地域に必要とされるロータリーを築いていきたいと思っています。

## 各委員会事業計画発表



新美 大輔  
出席委員会



黒田 栄一  
クラブ会報・IT委員会



中村 智  
親睦活動委員会



石川 友美  
雑誌委員会



磯村 巖  
プログラム委員会



近藤 純子  
公共イメージ向上委員会



花井 淳  
会場委員会



藤井 邦彦  
ニコニコボックス委員会



小川 耕示  
職業分類・会員選考委員会



宮地 秀将  
会員増強委員会



石川 泰隆  
研修情報委員会